

# 令和4年度 第1回スクラムスクール運営協議会（記録）

令和4年5月19日(木) 19:00~20:35

会場：御前崎市研修センター

進行：学校教育課（主席指導主事）

## 1 開会の言葉

### 2 教育長あいさつ（河原崎 全 教育長）

御前崎市スクラムスクール運営協議会は、9年目に入りました。

ここ数年、子供たちの基本的な生活習慣の定着をテーマに様々な話し合いを進めていただけてきました。いろいろな立場の方がそれぞれの立場や経験の中でお話をしてくださることで、具体的な動きが始まったり、新たな広がりが出てきたりします。そういうところがいいところだと思っています。本当にありがたいことです。

毎月1回の挨拶運動について、市民の方から「子供たちの挨拶がいいね」という声は何件か届いています。各学校でも、そういうあらわれが出ているのではないかと思います。

「早寝早起き朝ごはん」については、朝食の摂取率も安定して高い位置にいると思います。各方面での呼びかけが、功を奏しているのだと思います。電子メディアについては、関わる時間が長いという調査の結果が出ています。この会を中心に、いろいろなところで改善策等を考えていただいていますので、今後に期待をしていきたいと思っています。今年度から、園のほうでも、浜松大学の今井先生の講演会が4月から始まっています。子育ての中で大切なこと、愛着、笑顔、コミュニケーション等の大切さ・メディア等についての講演をお願いしています。インターネットとの関わりが低年齢化、長時間化ということが課題になっているので、やはり、園のうちから、保護者の方に啓発をしていくことは大切だと思います。こちらも効果が出ればありがたいと思っています。

新聞に日本財団が行った『18歳の意識調査（日本を含めて6か国）の結果』が掲載されていました。簡単に結論は出せないと思うのですが、日本の若者の特徴を見ると、やはり『自己肯定感が低い』『自分のよさを見つけられない』『チャレンジ精神が若干欠ける』等の特徴があるように思います。昨年 of 全国学力学習状況調査の結果からも、似たような傾向がみられるように思いました。

この協議会の取り組みは、こういう課題を克服していくための基本的な働きをするものではないかと思います。今、この会で取り組んでいることが実践されていけば、課題になっていることの数値も上がってくるような気がします。是非皆さんでスクラムを組んで、今年度も子供たちが健全に育っていけるように取り組んでいただければありがたいと思います。

今年度の御前崎市教育委員会の中で、この協議会に関わるかもしれないことの情報提供をさせていただきます。

1点目は、学校再編についてです。牧之原市の学校再編計画が発表されました。新しいシステムになりますと、地頭方地区の子供たち相良の小中一貫校へ通うことになります。ところが御前崎中学校の校舎の場所は牧之原市になっていますので、そこをどう解決していくかということが大きな課題になっています。また、市内全体の人口は、減少傾向にあります。各学校校舎も老朽化が進んでいます。昨年の5月から、学校再編検討委員会を設置し、委員の方から御意見を伺ってきました。そこで出た御意見とか、今の学校の状況等を報告する会（市民の方から御意見を伺う会）を6月の後半から7月にかけて、市内で3回開催する予定です。

2点目は、中学校の部活動についてです。先生方の働き方改革が必要だと言われていきます。また子供たちの数が減少により、ひとつの学校でひとつのチームを組むということが

困難になってきています。平日は各学校で先生方が指導し、土日は地域とか、民間の方に指導をお願いするというシステムを来年度から3年間の中でつくりましょうという提言がなされています。指導者を探す方法、予算、指導の仕方等、検討することがたくさんあります。これからは地域の方にも協力をしていただくとか、将来的には平日も地域の方に面倒見ていただくようになるかもしれません。これからは、このスクラムと同じように学校と地域が力を合わせて、子供たちの成長を見守っていくというところにつながっていくと思います。地域の皆様方の御意見をうかがったり、御協力をいただいたりすることもあると思いますので、是非宜しく願いをします。

### 3 学校教育課より

- ・スクラムスクール運営協議会について (別紙) 学校教育課長
- ・「元気な心と身体をつくる睡眠指導」結果と課題の提案 (別紙) 養護教諭研修会

### ・社会教育課より

「スクラム御前崎の集い」ご案内

(7月2日(土) 13:30～ 佐倉地区センター ホール)

### 4 分散会

- (1) グループ協議・報告
- (2) 指導・講話

### ○島田 桂吾 静岡大学教育学部准教授

皆さんこんばんは。長時間に渡り熱心な協議をしていただきありがとうございます。私は静岡大学で教育行政に携わっていきまして、御前崎市のスクラムスクール運営協議会には立ち上げの時から関わらせていただいております。9年間この活動が続けられてきた、継続できたということは、とても素晴らしいことだと思います。浜岡と御前崎の地区毎に、園、小、中、高校までの縦の学校関係者と、地域、保護者の横のつながりの方が集まって、同じ課題に向けて、その解決に向けて、どんなことができるか、それぞれの立場から考えながら、対面での対話は2年ぶりですけれども、大人たちが子供たちのために何ができるかということを一生涯懸命考えながら、それぞれ活動していくことで実現していく。挨拶運動から始まってこの活動ができてきたということは、とても素晴らしいことです。この9年間続けてこられた財産ということ、議論を聞きながらすごく感じることができました。

学習指導要領という教育課程の基準としての定めがありますが、数年前からカリキュラム会議が行われ、今学校では、課題解決の力をつけさせようと、総合的な学習の時間、高校では総合的な探求の時間などで、力を育成していこうと取り組まれているところかなと思います。このスクラム協議会は、リアル課題解決学習だと思ったところです。課題解決学習は、まず課題設定があるんですが、問い、リサーチ・クエスチョンというんですけど、何を解きたいのかの問い、問いのためにどんな情報収集、実際どうなのか、それを踏まえて、どんな解決策があるのか、分析しそれをまとめて報告する、この4つを螺旋的にまわしていきましょう、というのが探求的学習として示しているものです。なぜその力が必要かという、リアルな社会では課題はたくさんある。それを見過ごしてしまえばただの事象なんですけど、それを問い、課題設定という形にすることによって、目に見えた解決すべき課題として起き上がってくるわけです。それが立場や視点が違えば見えてくるものが違うわけですね。

中学生が考える睡眠というものと幼児が考える睡眠というものの見え形が違う。それに関わる先生方の見え方、子育て中の保護者の方、違う立場の人からは同じデータでも見え方が違うと思うんですね。社会がそれだけ多様な人達で構成されている。子供たちに共通してこういう子がよいのではないか、今日のところでいう睡眠における正しい知識とは何か、そ

ういった議論がある訳です。それをどのように多様な考え方や価値観のある人達に対して訴えていくか。それがひいては、その人たち一人一人の生き方とか、人生を豊かにしていくこと、それが大前提としてあるので、なかなかそこが難しいけれど。

問いを見つけること、そのためのデータを集めること、それをまとめて人に発表するということ、これを小学校の頃に経験することによって、社会に出た時に、実際に解決できるような力になるようにカリキュラムが組まれていると思います。そのためには大人が模範を示すということが大切で、こうして集まりながら、非常に難題ですけど、取り組もうとする姿勢が大変すばらしいと思いました。こういった力を子供たちに身につけさせるために、学校のカリキュラムが行われているということがありますので、こういった大人の姿を子供に伝えていただきたいと思います。1つ目は、スクラムの意義ということでした。

2つ目は、本日の養護教諭の先生方の睡眠の報告のところで感じたことでいくつかコメントさせていただきます。

適切な知識って大事だなと思ったところです。振り返ってみれば、私は、小、中、高の時に、睡眠の正しさとか大切さとか教わった記憶がないんです。大人になってから、いちばん睡眠を軽視したのは大学院時代かと、やっぱり自分が就職するためには論文を書かなくてはいけない時代だったので、夜な夜なやっていた記憶があります。今は体力がもたないし、子供と一緒に寝落ちするという生活をしてはいますが、あらためて睡眠は確かに大事だなと思います。そういった知識を小学生から中学生に伝えながら、特にデータをしっかりととりながら説明していただいたということ、それを関係者に示していただいたということは、とても意義ある報告だったと思います。平均値より中央値を見ると、もっと平成元年度から3年度までの改善が見えるのではないかなと思います。でも、着実に改善しているしすばらしいなと思いました。

もうひとつ興味深いなと思ったのは、睡眠時間の確保という目的として、その弊害、その睡眠時間を阻害している要因としてのメディアというものを位置付けながら、そのメディアを特に寝る1時間前に焦点化し、それをどのように解決していけばいいのかというところで、かなり焦点化された問いの立て方だと、それはすばらしいことだと思います。研究をやっている時に意識しなくてはいけないことは、目的と手段ということで切り分けることなんです。何のためにその研究をするのか、何のためにそれを解決するのか、目的が複数あったり、それが階層化されていなかったりすると、結局解決の仕方が変わってくる。

昨年度までは、どちらかといえば、メディアをどのように抑制するか、或いは自律するかというテーマ、昨年、一昨年までだったと思いますが、今回は睡眠時間の確保というところを目的にしながら、その阻害としてのメディアというもの、睡眠の1時間前ということを中心化させることによって、対策を議論するという阻害としての焦点化が成功していると。焦点化しているがゆえに答えが難しいという面があるんですけど、そういう設定の仕方というのは、とても重要なこと。それも園、小、中、高と、それぞれ違う立場で、考えていくということに、これっていう正解があるかどうかともかくとして、そういったことを共通認識として捉えた上で、それぞれ活動と取組を考えていくということが、とても有効な手段ではなかったかと思います。

ここでメディアが、今回ここでは手段ということになるのですが、これもまた別の問いの立て方をすると、メディアと如何に付き合っていくかという目的になって、そのための手段として、睡眠をどうするかという、そのあたりの問いの立て方って実は難しい。研究をやっても、結論を書くより、問いの立ての方が数倍難しい。結論を書いてから問いを変えることも実はあつたりします。メディアはメディアで非常に重要なテーマだと思いますので、引き続き対応していく必要があるのかなと思いました。

メディアについては、GIGA スクール構想ということで、小、中でも一人一端末ということが当たり前になっていますし、パソコンがないと授業が受けられない。今結構キーボードを

打てないということがあって、なかなか教えられない、こちらも教え切れないところがあってなかなか難しい面がある。今の子供たちからすると、文房具、鉛筆と同じ感覚なので、大人にとってのメディアと、彼らを感じているメディア、同じ言葉だけど、意味合いが違う可能性がある。それを多面的に見ていく必要があるのかなと、あらためて感じました。

その上で最後にコメントとして3点、今後に向けての、感じたこととしてコメントさせていただきます。

1つ目が、睡眠と、メディアと、早寝、早起き、朝ご飯の共通項、もう少し上位目標をですね、そこを明確化できると、もっと目的と手段について整理されやすくなるのかなと思いました。今日いろいろ聞いて思い浮かんだのは、自律っていうところ、自分で律する、自分の立てた規範に従って、自分のことは自分でやっていく。睡眠の話も寝る時間を決める、ルールを決めて、それに従っていくということ、寝る前1時間前にメディアをやらないというひとつの規範があって、それを自分事として捉えやっていること、なかなかそこまでいっていない。中学生だったら、わかっちゃいるけどやめられない、または知らない、わからないことがある。やはりそれは、家庭、保護者の考え方とか、むしろ保護者の生活習慣にかかわっていると思うんです。そういうところがある中で、結局、自律って大人になっても絶対不可欠ですね。自律を育成するためには、自分で決めたことは自分でやっていく、それが睡眠だったり、メディアだったり、朝ご飯だったりっていうところにつながってくるかなと。睡眠もメディアも、生活習慣ということで共通項で、最終的にはそれを自律、つまりそれを子供たち自身が自分の規範として捉えて、自分で実行できるようにしていくためには、周りの大人がどのような手立てをすればよいのか。特にそれが幼少期から高校生まで、多様な縦のつながり、あるいは学校、地域の横の（つながりの）中で、どのような手立てができるのか。それがいちばん上位目標になるのかなと感じました。

2つ目がですね。子供たちの意見を聞く、或いは表明する機会をもってあげられるといいのかなと思います。そうなったひとつの社会的な要求として、今「子ども基本法」という法律が国会に上程されていて、先日衆議院を通過ということで、たぶん来月6月中に参議院を通過して今年度中にできると思うんですけど、これは1994年に、もともとは「児童の権利に関する条約」が、平成元年、1989年に結ばれて、日本は1994年に正式にスタートしたわけです。これに関して国内法があって、子どもの権利の中で、重要視されているのは2つあるんですが、いろんな物事を判断する時には、最終的に子供にとって最善になる利益を最優先にしながら、いろんな価値判断していきましようというのが1つと、もう1つが、子供の意見表明、子供たちの意見を表明する機会です。全ての子供について、日本に直接関する全ての事項に関して意見を表明する機会、多様な社会的活動に参画する機会が確保されるというのが、今の「子ども基本法」に書かれている。実はこれが日本は非常に遅れていると世界的にも言われている。これが初めて国内の中で整備されているという状況になっています。

ここまでくる中でまた特に自律ということを考えて、子供たち自身がどう思っているのか、改善策を見てできない理由を考え、子供たち自身で何か解決する手立てができないか、そういったものをすぐには難しいと思いますが、並べて検討していく。保護者もいろんな生活習慣を見直さないといけないわけで、大人も睡眠時間を確保するために努力しなければいけない。親の生活習慣を見直し、親も一緒に睡眠時間を確保する。大人も睡眠時間が大切だと思いますので、一緒にやっぺいこうということ、難題ではありますが、ぜひ皆さんの知恵をだしながら進めていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

○中村 美智太郎 静岡大学教育学部准教授

教育長さんの挨拶の中に、御前崎市スクラムスクール運営協議会が今年で9年目になっているというお話がありました。9年間を連続して続けているということに価値があり、話し合うこと自体に意味があると思います。気づいた点や感じたことをお伝えします。何らかの

ヒントになれば幸いです。

子供たちの世代と、我々、親の世代には、断絶というかズレがあると思います。子供たちの世代というのは、デジタルネイティブ世代。生まれた時から、スマホとか、ゲームとかがもう普通に使える世代。我々は、デジタルネイティブの世代ではない。もしかしたら年齢が私より上の方は、今の若い人たちが何に熱中しているのかよくわからないという感じで見ているかもしれない。だから答えは当然出るわけではないですし、やり方一つではうまくいくところもあるでしょうし、逆に若い人たちの反発を招いてしまうところも出てくるかもしれないと思いました。

あるグループで、今の若い人たちが調べるといふ行為についての話が出ていました。スマホを見ればすぐに分かるのだけれども、私たちの世代では辞書をひくということが当たり前で、その二つには違いがあるという話が出ていて、大変興味深いと思いました。辞書をひくことと、例えば、グーグルで検索するという事は、果たして同じ結論が出るのでしょうか。辞書を引いた時のその言葉、あるいは本を読んで、その本から得た情報等、インターネットで検索して、グーグルで調べて、上のほうに出てきたものと同じもののでしょうか。私はかなり違うと思うのです。例えば辞書や本で出てくる情報というのは、公正・公平で検証を経た質の高い情報だと思えます。これに対してグーグルで出てくる答えは、何の検証も経ていなかったり、何の検証があっても、これは間違っているのではないかと思ったりすることも結構あります。つまり、二つの情報は、同じ質を持ってはいないのではないかということです。

とかく、我々のような世代は、デジタルネイティブ世代に押されがちというところもあるのですけれども、他方で質が高く公正公平な情報をもっている・検索できる・調べることができるということも、デジタルネイティブ世代にきちんと伝えていく必要があるのではないかと思います。あまり知られていないことかもしれませんが、グーグルの検索結果というのは、当然、営利団体であるグーグル社が検索結果を操作しているわけです。検索結果の上に出てくるものを選択出来るわけです。公正・公平に見えているけれども、決してそうではなくて、グーグル社の思惑が何らかの形で反映されている。インターネット上の検索行為というのは、決して公正公平なものではなくて、何らかの第三者の恣意的な意図が含まれているものであることは、しっかり自覚しておく必要があります。

養護教諭さんの発表資料の中に、OECDの調査結果がありました。OECDは同時に、各国がICTの機器をどれくらい使っているのか、どういう使い方しているのかという調査も同時にやっています。学習のプロセスで、ICTをどう使っているかということも調べていて、それによると、日本のタブレットとかインターネットを使っている用途で、OECD平均より高いレベルにあるのは、勉強以外に使っているということです。基本的には、エンターテインメント（ユーチューブとかLINE）に、より多くの時間を割いて使っているという特徴。他の先進国と呼ばれる、国の子供たちは、ICTの機器を学びで使うというのが割と定着していて、何かデジタルを有効活用して、社会に還元していくことを教育の中でしっかり考えているという傾向があります。

そういう中で、今日のテーマは睡眠時間や生活習慣の改善だったりするのですけれども、これを確保しようと思ってコンピューターで使う時間を減らしていこうというふうになった時に、遊びの時間を減らすのだったらまだしも、学びとして使う分を減らしていくとしたら、あまり効果は出てこないと思います。大きな話かもしれませんが、どう使うのか、そして、どこに向かって我々はそれをやっていきたいのか、どういう社会をつかっていきたいのか。これは、デジタルから我々も離れることが恐らく出来ない社会がずっと続いていく中でいわゆる『デジタルの断絶』も当然起こっていきます。『デジタルデファイル』という言葉があって、今後、学習や仕事に積極的にコンピューターで使える層と遊びとユーチューブでしかほぼ使わない層の完全2線分かれる。もう既にアメリカとかではそういうことがもう非

常に深刻化している。日本は今その入り口にあるというか、これからまだいかようにでも変えられるような入り口にいると思うので、どうやって有効に使えるか、使い方についてもう少し具体的に考えていけばいいのではないかと思います。

改善方法の一つのアイデアとしては、ICTの機械を使う方法。例えば、子供部屋の電気をデジタルでコントロールする方法。この時間になったら部屋の電気がゆっくりで消えていくような設定をすとか、コンピューターの電源をこの時間になったらシャットダウンすとか、大人はそういうふうにやってほしいと考えているということ、会話と実際の行為として示していくことが欠かせないのではないかと思います。「やめなさい」と言ってもやめるわけではないですし、中毒性が非常に高いものですから、努力でどうにかなるレベルではないのです。

頑張るということは、短期間だったらすごくうまくいくのですけれども、長期スパンでやろうと思ったら無理なことが多いです。主体的で自立的なコントロールというところまでは恐らくいかないだろう。それでも中毒性があるのでどうするかというと、最初は話し合いをしっかりとやりながら、大人側がこういうふうに行動してほしいなんてことをしっかりと伝えていくこと、そして実際に行動として示すことだと思います。主体的自律的を頑張ることではないレベルに少し方向転換して、大人だけ一方的に伝えるのではなくて、話し合いながらお互いの着地点を探りながら、試しながらやっていくっていうのがいいのではないかと思います。楽しくできるのが一番いいと思います。電気が自動で消えるって面白いねと思ってもらえたら、それを受入れてもらえるかもしれません。楽しい要素を入れていくっていうのがポイントなと思います。

報告の中に、勉強時間が減ったというデータがあって、驚かれていた方がいらっしまったかもしれませんが、あれも見方によっては、効率よく勉強したかもしれないわけで、必ずしも悪いことではないかもしれないです。

いろいろな見方がある中で子供なりに自分の人生を楽しもうとしたり、生活をうまくやっいてこうとしたりしているということを認めたいうえで、お互いコミュニケーションをとりながらやっていくのが一番いいのではないかと思います。そういう意味でも、この会というのは、大人たちがどういうふうにしていきたいのかを考えるきっかけの一つになると思うので、続けていっていただければ、非常にいいと思います。

## 5 連絡・閉会の言葉